



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	はじめに：卒後の姿を見据えた系統性のある教育内容の確立を目指して( fulltext )
Author(s)	大伴, 潔
Citation	東京学芸大学附属特別支援学校研究紀要(58): 1-1
Issue Date	2014-05
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2309/135758">http://hdl.handle.net/2309/135758</a>
Publisher	東京学芸大学附属特別支援学校
Rights	

## はじめに

### —卒後の姿を見据えた系統性のある教育内容の確立を目指して—

学校長 大伴 潔

特別支援学校においては、在籍する幼児・児童・生徒が卒業後に社会や家庭の一員として自立した豊かな生活を営むことができるように、長期的な展望に立って教育にあたっています。特に、幼稚部から高等部まで有する「生涯発達支援校」である本校では、それぞれの発達段階で、子どもたちに「つけたい力」を想定して教育にあたっています。職業人や社会人としての役割を担った生き方に向けた継続的な学習は、現代的な教育的ニーズとして近年特に注目を集めています。技術の習得と作業の効率性が重要であることは言うまでもありませんが、他者との協調や、自分を客観的に見つめる力といった心の育ちも、働くことを含めた生活力の礎となります。また、常に自分を取り巻く世界に関心を持ち続けることが前向きに生きる姿勢や将来の見通しにもつながります。

一つのライフステージの 幼児・児童・生徒の姿を見た場合、特に力を入れて育てたい領域があるでしょう。例えば、幼児期には生活習慣を確立し、事物についての概念を形成し、家族等の人との情緒的な結びつきを高めていくといったことが挙げられます。このような発達の課題は教育課程を編成する際のひとつの拠り所となりますが、その一方で、職業人や地域社会の一員として自立した豊かな生活を送るという卒後の将来像から降ろしてくると、社会的な人格をもって行動したり、規範意識を高めたりするといった高等部段階での教育の重要性が浮き彫りにされます。そのような課題について、学部間の連続性のなかでより早い段階から取り組めるように教育課程を組むことが私たちに課せられています。

各発達段階に特有の課題に留意しつつ、一人ひとりの将来像を見通すことによって、有効な生涯発達支援の道筋を描くことができます。系統性のある教育内容を保障するために、本校では、教育の枠組みとして、「生活支援」「余暇支援」「就労支援」「学習支援」、さらにはこれらにまたがる「コミュニケーション支援」の5つの支援内容区分を設定しています。他方では幼児・児童・生徒の個別的な課題から作成される個別教育計画というもう一つの柱を拠り所として指導計画が立てられます。こちらは保護者とともに子どもの育ちと課題に向き合う共同作業であり、指導計画にも子どもの実態に合せた柔軟性が求められます。教育課程についても、固定化させず、今日的課題に柔軟に対応するために、本校では授業評価に基づき教育課程を評価し、改善にまで活かす取り組みを平成23年より重ねて参りました。特に本年度は、学部ごとで議論を終結させるのではなく、縦のつながりを検討する作業部会による検討も行って参りました。さらなる検討が必要な部分も多々ありますが、本研究紀要においては、各学部での取り組みの成果をご報告申し上げます。

本年度も研究を遂行するにあたり多くの先生方のご指導ご助言を頂きましたことを感謝申し上げます。研究を実施することで得た知見を積み上げ、在校生に還元していくことによって、在校生の皆さんと保護者の方々への感謝の意を形にしていきたいと思っております。